

山 ゆ り

9-10月号 No363 2015年9月1日

初号発行:1972年12月25日

山ゆりの会(尾瀬の自然を守る山ゆりの会)

年会費1000円(郵便口座00230-2-42601)

〒246-0025 横浜市瀬谷区阿久和西2-25-16 草野正昭

Tel/Fax:045-364-6515 メール:VZM03024@nifty.com

URL : <http://homepage3.nifty.com/yamayuli/>



■ 7月 : 7/10-11 花の尾瀬

参加者 : 豊留 和田 稲本 大野 遠藤
浜田(ふ) 浜田 島 島(栄) 河野 加藤
松田 田村 草野 内藤 香取 菅野 細
谷 F.デュラン (19名)

●コースタイム : 7/10(金) : 天理ビル前
6:30 出発-東名姥名 JCT-圏央道-関越道高
坂 SA8:05-赤城高原 PA9:00-沼田 IC. 9:10-
鳩待峠 10:20 到着。10:40 出発-横田代
12:00(昼食)-アヤメ平 13:30-竜宮小屋
16:35-第二長蔵小屋 17:00

7/11(土) : 第二長蔵小屋 7:00-尾瀬沼
9:00-長蔵小屋
10:05-三平峠
11:10-一の瀬
12:30-(旧道)-
大清水 13:30(昼
食)-14:10 大清水
出発-関越道・圏
央道・東名-天理
ビル前 18:20 到着。
解散(以上河野
記)

●参加者の日頃の
行いが良くて、2
日間とも晴天に恵
まれ初夏の尾瀬を



堪能することが出来ました。

何故か尾瀬に来ると懐かしい気持ちにさせられます。4年前は福島原発事故で登山者が大幅に減少していましたが、今年は、年配者や若者、女性たちのグループなど入山者が増えてきたように感じました。

横田代やアヤメ平からは至仏山や燧ヶ岳・平が岳などの山が一望できました。アヤメ平の植栽もようやく回復してきていました。一度壊された自然が回復するには相当の時間を要することを痛感させられました。ニッコウキスゲやキンコウカの開花にはちょっと早すぎたのが残念でした。

燧ヶ岳から見晴に下るルートは途中の土砂崩れで閉鎖されていました。三平峠から一の瀬までの登山道はかなり整備され、一の瀬から大清水の区間に一人700円でワゴンタクシーが運行されていました。大清水までは途中から旧道を40分ほどかけて歩きました。砂利の車道に比べ、落ち葉の覆った登山道はとても歩きやすい。

尾瀬の木道は、東電が整備から撤退したので、国の予算できちっと行っていくべきだと思います。今後どうなっていくか注目したい。(河野正典)

●台風の前測が見事にハズレ快晴の山行。ハイカーの数も元に戻り賑わいを見せていた。初日あやめ平から竜宮への山行はまさに雲上の湿原に行く感じで、気分は爽快そのもの。夜楽しみにしていたはホテル観察は、まだ1週間早いとのこと。残念！すぐに星の観察に切り替え、金星や満天の星観察を堪能。翌日は朝日が造形する白い虹現象が見られるとの情報を得て4時起きで出かけた。その現象は見られなかったが、朝露が草花を輝かせる早朝の湿原の表情がすばらしかった。

植物以外の生き物で観察出来たのは、カシラダカ、ミソサザイ、コマドリ、カッコウ、カラ類、ウグイス（以上野鳥）、ヤマアカガエル、イモリ（別名アカハラ）、イトトンボ類（絶滅危惧種のモノサシトンボも見えたような）、ジムグリ（蛇）等。

最後の大清水での生ビール、湧水でしめた絶品のソバ、出発間際でありついたイワナの塩焼き。最高の尾瀬を満喫しました。（加藤良昭）

●前泊した横浜駅近くのビジネスホテルが電車の騒音で寝不足、さらに日頃の運動不足から、アヤメ平らへの最初の登りで息があがってしまった。おまけに登山の基本というべき登山靴が昔のまま、足に合わず左足の親指の爪に内出血。足の筋肉もつったりで、皆さんの集団から遅れて迷惑の掛けっ放しでした。それにも拘わらず、薬や飴などを頂いたり声を掛けてくださり、有り難いやら申し訳ないやらの気持ちでいっぱいです。特に最初から最後まで付き添ってくださった方々には本当に感謝してます。それでも、あの空の青さとそれを映した尾瀬沼を見ることが出来て最高でした。

（内藤敏夫）

●10日くらい雨続きで天気が心配でしたが、なんと朝からいい天気、久しぶ

りの尾瀬、たくさんの花とすばらしい景色に感激するばかりでしたが、一番印象に残ったのはアヤメ平でした。前回行ったのは平成11年8月1日でした。その時キンコウカの花が少しありましたが、ほとんど土むき出しの荒れ地だった。ところが今回は見事に草原に復活していました。ワタスゲ、チングルマ、タテヤマリンドウ、ヒメシャクナゲ、その他沢山の花が咲いていました。

以前の尾瀬でゴミが山のようにになっている写真を見ました。回収に莫大なお金がかかり、ゴミ箱をなくして持ち帰る運動が始まったと書いてありました。今ではゴミを持ち帰るのは当たり前ですが、その先駆けが尾瀬だったと知りました。

何度来ても美しい尾瀬、ぜひまた行ってみたいです。（大野君子）

●心配だった台風9号は幸いにもコースを逸れ、前日までの雨天続きがまるで嘘の様な快晴となり、朝の鳩待峠は登山客で賑わっている。どの顔もみんなニコニコ。抜けるような濃い青色の空、たっぷりと陽射しを受けて輝いている新緑の樹々。尾瀬の空気を胸一杯に吸込んで出発。

4年振りの尾瀬。今回は、あやめ平、富士見、竜宮を経て第二長蔵。翌日、三平峠から大清水へのコース。あやめ平の植生の再生は、かなり進んでいて、「天井の楽園」の復活も間近そう。至仏と燧の間には遠く残雪の越後三山と平ヶ岳が、振り返れば日光白根。こんな雄大な眺望を堪能する。暫し至福の時間が過ぎる。

咲き出したばかりの幾種類もの花達を両側に見ながらの木道歩き、ビールやワインでの歓談、星空の探索、日の出前の朝霧の中の散歩等、何度回を重ねても、毎回楽しい時間だ。

ゴール真近にある岩清水でのコップ一杯の冷たい恵みが、ノドに浸みて美味でした。皆さん！二日間を有難う！

帰ってからも脚の痛みが無いのは、続けている山筋GOGO体操のお陰かな？

(松田雄二)

●夏の訪れ。悪天候続きで不安でしたが、逆裏切りの良き天気にも恵まれました。木道、かわいい小さなお花の樂園、やさしい風と揺れるワタスゲ、心身ともに癒してくれる尾瀬ヶ原と尾瀬沼でした。この自然地を訪れ歩いたのは33年ぶり。その時見られなかった幻のミズバンショウに出会い、うれしくてありがとうと声をかけてしまいました。

(遠藤ふみ子)

●5回目の尾瀬歩きです。鳩待峠からアヤメ平一竜宮十字路一宿泊先見晴の第二長蔵小屋迄は初めてのコースです。

たっぷり汗をかきアヤメ平へ到着。可愛い花のお出迎え、イワカガミ、リンドウ、ウラジロヨウラク等々。富士見峠近くの小さな池塘には、咲き残っていた水芭蕉もありました。

小屋の方から明朝、天気が良く気温が低いと尾瀬ヶ原全体をすっぽり包む円形状の朝霧が見えると、翌朝4時過ぎ起床。空気が冷たい。至仏山横から朝日が照り始めましたが、霧は薄く、期待した真っ白な朝霧は見れませんでした。

尾瀬沼を半周して三平峠—一ノ瀬—大清水へと。三平峠迄の登り、木々の間に見える山と沼。「この景色、尾瀬歩きあと何回来れるかな～」と思いながら、歩みを速めひたすら大清水目指し歩きました。一ノ瀬から大清水迄の下りの林道、何回来ても長い。でも着いてから大清水小屋で飲んだ「生ビール1杯美味しい」この為に歩いたのでした。

(稲本なお子)

●仙台に転勤になって3ヶ月が過ぎました。毎月の山行には参加できなくなったので、今回の特別山行には何とかして参

加できないかと考え、夜行バスで横浜に向かい、合流しました。

四年ぶりの尾瀬は、心配していた台風も追い払い、晴天となりました。花も沢山出迎えてくれて、バイケイソウ、ゴゼンタチバナ、エンレイソウ、もちろんミズバンショウやニッコウキスゲも咲いていて、本当にかわいらしい姿を見せてくれました。久しぶりの山歩きで脚はガクガクでしたが、心地よい疲労感でした。

今回はたまたまフランス人の友人が日本に来ると重なったので、一緒に連れてきてしまいました。皆のアイドルになってたようですが、本人はどうだったのかな？(笑) 来年もタイミングが合えば誘おうと思います。それとも、山ゆりの会員になってもらいますか？(笑)

(香取 恵)

●毎年夏休みに日本へ行き、最近一人で山にも行きます。今年、メメちゃんが山ゆりの会の尾瀬にさそわれました。

実は尾瀬のことは聞いたことがなかった。少しインターネットと本で尾瀬のことを読んで花や湿原があで場所で面白そうだった。

鳩待峠から快い森の道、少し登って盛を抜けると横田代に着いた。初めての湿原だった。素晴らしかった。いい天気でも池や草や花があつて遠くに至仏山がよく見えました。アヤメ平までそういう環境の中を快適に歩きました。

森の中の道を尾瀬ヶ原へ下ると、そんなに広い湿原があるとは全然しりませんでした。とてもきれいだった。青空と花の中の山小屋までの道はとても良かった。ずっと木の板の上を歩くことがびっくりしました。環境保護のための理由がよく分かりました。

翌朝早く起きて霧が消えるまで、霧の動きや植物のクモの巣についた露などもゆっくり見ました。尾瀬沼までもずっと青空で、遠くに燧ヶ岳があつて尾瀬沼の湖畔をずっと沿って歩きました。

日本の花と植物の名前が全然知りませんが食虫植物（＝モウセンゴケ）をよく覚えてます。

遠足の終点は大清水だった。ちょっと休んでおいしい塩焼きイワナ（と日本酒）を食べて横浜までバスで帰りました。天気もよかったし景色もきれいだったし親切な人にも会えましたし。とても楽しくて良かった。今度行ったら、至仏山や燧ヶ岳を登ってみたいです。

（フランソワ・デュラン）

●今回、パートナーが所属する山ゆりの会が尾瀬に行くと言う。「貴方も一緒に行かない？」と誘われたのですぐ行くことを決めました。山登りにはあまり自信はなかったけれど・・・しかし、行って

よかったです。唱歌として歌われるだけあって、やはり尾瀬は素晴らしかった。

天気にも恵まれたおかげで、周りの山々の眺望、広大な湿原、高原を吹く風、山小屋で見た星々や朝霧、ダケカンバやぶなの原生林、どれをとってもその時々山歩きの疲れを癒してくれるに十分なものばかりでした。

最後に、靴の底が剥がれ困った際に、すぐ救いの手を差し伸べて頂いた松田さん、河野さんにはお礼の言葉もありません。おかげで最後まで不安なく歩き続けられました。改めて感謝申し上げます。機会がありましたらまたご一緒させていただければ幸いです。（濱田隆司）

■ 9月予定：9月13日(日)百蔵山(1003m)

★★

久しぶりの山登りです。ふるって参加ください。

- ・集合：中央線八王子ホーム 朝 8:04 甲府行きに乗車 猿橋駅下車
- ・持ち物：昼食、雨具など

■ 10月予定：10月18日(日)箱根旧街道・元箱根から三島駅(西坂) ★

山ゆり初めてのコースです。石畳が残る箱根旧街道の下りです。

- ・集合：JR 小田原駅東口改札 朝 8:30 8:40 発元箱根行バスに乗車 終点下車
- ・持ち物：昼食、雨具など

■ 例会の予定

- ・9月15日(火)：9月例会
- ・10月20日(火)：10月例会

あとがき ・立秋を過ぎても猛暑が続いてます。尾瀬の原稿ほか載せきれなかった原稿は次号に掲載予定です。・安保法制(戦争法案)が衆院で自公両党により強行採決、国民の怒りと法案への反対の声が一気に広がっている。猛暑の中の国会デモ、20代の若者の多いことになんとなく安堵。安倍政権の支持率は30%台とこれも一気に逆転。・8月9日長崎平和式典、田上長崎市長は国会審議中の戦争法案の慎重審議を求めた。被爆者代表の谷口さんは「平和の誓い」の中で「平和を

願う多くの人々が積み重ねてきた核兵器廃絶の運動、思いを根底から覆すもので、許すことが出来ない」と出席した安倍首相の眼前で戦争法案を批判した。・8月11日鹿児島県の川内原発が再稼働。安倍首相は世界一厳しい安全基準をクリアしたから安全といい、審査した原子力規制委員会の田中委員長は「安全を保障するものではない」という。福島原発事故を顧みない新たな安全神話のスタートだ。・「侵略、植民地支配、反省、おわび」を自ら言わず、村山談話、小泉談話を薄めた安倍談話に世界から批判が。

- ・九条を墓標は知らず蟬時雨
- ・天上の揺れるワタスゲ・チングルマ 【K】